

平成30年4月に6年生を対象に全国学力・学習状況調査を実施しました。本校の調査の結果と分析した学習状況の傾向、そして、今後の指導の方向性をご報告いたします。

1 目的

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

2 調査問題の趣旨と内容例

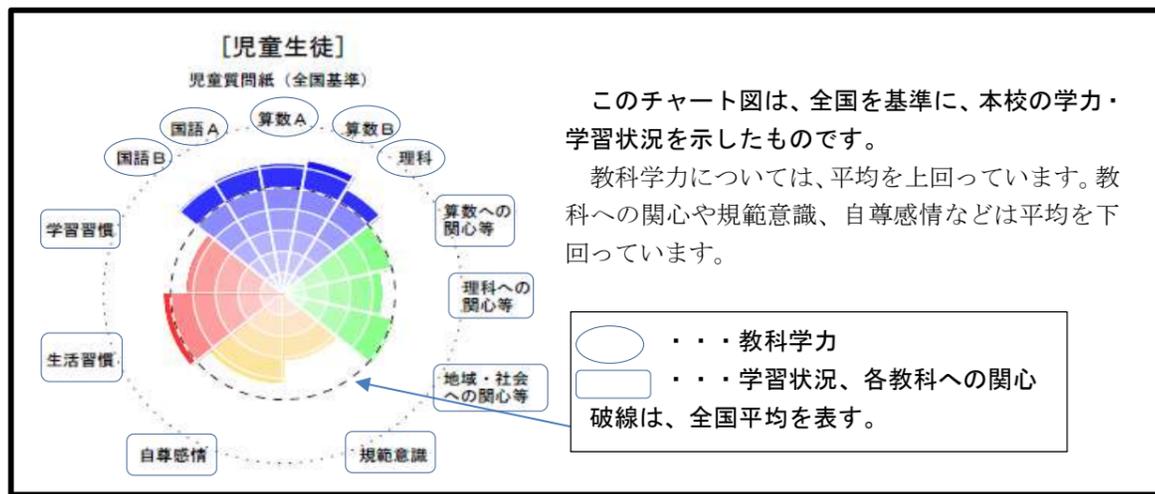
※【 】は学習指導要領の領域

<p>国語A：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す。【話すこと・聞くこと】 ■ 登場人物の心情について、情景描写を基にとらえる。【読むこと】 <p>国語B：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。【書くこと】 ■ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む。【読むこと】 <p>算数A：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかをみる問題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ。【量と測定】 ■ 3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く。【数と計算】 <p>算数B：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360度になっていることを記述する。【図形】 ■ メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する。【数量関係】
--

3 本校の調査結果

①チャート図の見方

資料1 全国学力・学習状況調査結果チャート図



②各教科の平均正答率

資料2 各教科の平均正答

		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平均正答率	浅間台小学校	79	63	63	72	65
(%)	全国（公立）	70.7	54.7	51.5	63.5	60.3

4 本校の学習状況の傾向と今後の指導の方向性

①学力調査について（左頁資料1チャート図 ○部分、資料2参照）

○全国平均を上回っている ●課題

	傾向	今後の指導の方向性
国語A	<p>○ 全国の平均正答率を上回る結果となりました。</p> <p>○ 物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する設問では、8割以上の児童が正答です。</p> <p>○ 慣用句や敬語を適切に活用する設問については、どちらも全国の平均を大きく上回る結果となりました。</p> <p>● 漢字の書き取りの問題は、平均を上回っているものの、正答率が6割に満たない状況でした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しく漢字を読み書きすることの定着を図るため、ドリル学習や漢字テストなどの指導を継続して行います。 ・ 国語辞典の活用の充実を図ったり、毎日日記を書く活動に取り組んだりして、語彙を増やす指導を続けていきます。 ・ 文章構成の工夫などは、知識としての理解にとどまらずに、日常生活の中で活用できるよう表現の機会を設定して取り組みます。 ・ 今後も目的意識や相手意識をはっきりさせて文を書いたり話を聞いたりすることができるように、学習計画を立てて取り組みます。
国語B	<p>○ 全国の平均正答率を上回る結果となりました。</p> <p>○ 推薦する文章を書くときの工夫として適切なものを選択する設問では、9割以上の児童が正答でした。</p> <p>● 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く設問では、全国・本校ともに正答率は2割を下回りました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 約分のしかたを確認し、分数のかけ算、わり算の計算力を高めるため、ドリルやプリント等を活用して繰り返し復習していきます。 ・ 単位の意味を確認し、基準量と比較量の関係を正しくとらえて、割合を求められるようにしていきます。 ・ 数量の感覚を養うために、授業の中で線分図や数直線等を活用していきます。 ・ 問題場面をとらえ、解決方法を説明するような授業を行うことで、引き続き「活用する」力を育てていきます。 ・ 選択式の問題だけではなく、短答式・記述式の問題にも自分の考えやそう考えた理由を書き表わせるように、機会を設けて取り組んでいきます。
算数A	<p>○ 全国の平均正答率を上回る結果となりました。</p> <p>○ 角度についての設問では、どちらも平均正答率を上回っています。</p> <p>● 単位量当たりの大きさを求める式の意味を正しく選ぶ設問では、正答率が5割にとどまりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単位の感覚を養うために、授業の中で線分図や数直線等を活用していきます。 ・ 問題場面をとらえ、解決方法を説明するような授業を行うことで、引き続き「活用する」力を育てていきます。 ・ 選択式の問題だけではなく、短答式・記述式の問題にも自分の考えやそう考えた理由を書き表わせるように、機会を設けて取り組んでいきます。
算数B	<p>○ 全国の平均正答率を上回る結果となりました。</p> <p>○ 折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を選ぶ設問では、8割以上の児童が正答でした。</p> <p>● 選択問題の無答率が2分（2%）程度なのに対して、記述の問題の無答率は2割近くでした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元で学習した大事な言葉を使って事象や実験結果を筋道立てて説明できるように取り組んでいきます。 ・ 学習内容を生活経験と結びつけ、実感を伴った理解ができるように、課題の日常化を意識していきます。
理科	<p>○ 全国の平均正答率を上回る結果となりました。</p> <p>○ 風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ設問では、8割を超える児童が正答でした。</p> <p>● 腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎめを表す言葉を選ぶ設問では、全国平均を下回り、正答率は4割をきっています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元で学習した大事な言葉を使って事象や実験結果を筋道立てて説明できるように取り組んでいきます。 ・ 学習内容を生活経験と結びつけ、実感を伴った理解ができるように、課題の日常化を意識していきます。

②学習状況調査について（左頁資料1チャート図 □部分参照）

	傾向	今後の指導の方向性
	<p>○ 朝食の摂食については、「毎日食べている（88.4%）」と「どちらかといえば食べている（11.6%）」児童のみでした。</p> <p>○ 地域や社会への関心は高く、全国平均を大きく上回っていました。</p> <p>○ 家での学習について問われた設問については、「計画を立てて学習している」「授業時間以外にも学習している」など、家庭学習に前向きに取り組んでいる様子が分かりました。</p> <p>● 全国平均に比べて、自尊感情や規範意識が低い傾向にあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事、睡眠、適度な運動など、よい生活習慣が続くよう、ご家庭と連携しながら取り組んでいきます。 ・ 自分の課題や探究したいことを意識して学び続けることができるよう、学習習慣や家庭学習への取り組み方などについても指導を行っていきます。 ・ 学級や学年の活動だけでなく、たてわり班活動や学校全体、地域や社会にかかわる活動を通じて、自己肯定感を高められるように、指導を継続していきます。 ・ 道徳科の学習や日々の指導を通じて、規範意識を高め、状況に応じた正しい判断ができるように、指導を継続していきます。

これらの結果を全校で共有し、児童の発達段階を考慮しながら各学年の指導に生かしていきます。